

上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）

2017年度～2026年度  
（平成29年度～平成38年度）

2017年（平成29年）2月  
福山市上下水道局



旧佐波浄水場 配水池正門  
※国の登録有形文化財(建造物)



記念額(旧佐波浄水場配水池)  
きごう ふしやちゆうや  
初代福山市長の揮毫による「不舎晝夜」

策定の趣旨

上下水道事業を取り巻く経営環境は、水需要の低迷により収益が減少する一方で、老朽化した施設の更新・耐震化に対する投資が増大するなど、厳しい状況が続くものと見込んでいます。

このような状況の中、質の高い上下水道サービスを提供し続け、心の豊かさが実感できるまちの実現に貢献するという使命のもと、経営資源である「ヒト・モノ・カネ・情報」の全体を最適化するため、水道事業や工業用水道事業、下水道事業が目指す将来像や目標を示す「ビジョン」と「経営戦略」を合わせた、今後10年間の中長期的な経営の基本計画である『上下水道事業中長期ビジョン(経営戦略)』を策定しました。

現状と課題

水道や工業用水道、下水道は、市民生活や社会経済活動を支える重要なライフラインです。

東日本大震災や熊本地震など近年多発する大規模地震では、上下水道施設もこれまでにない甚大な被害を受けました。また、施設の老朽化に起因した漏水や道路陥没などが全国各地で発生しており、本市においても例外ではありません。

上下水道事業を取り巻く経営環境が厳しい中であっても、施設の適正な維持管理や計画的・効率的な更新・耐震化の投資を行い、将来にわたって市民の安心・安全を確保し続けなければなりません。



《左図》  
水道管の破裂による漏水  
※出典：読売新聞



《右図》  
下水道管の破損による道路陥没  
※出典：朝日新聞

**上下水道事業を取り巻く環境**

○現状

- ・水需要構造の変化による使用水量の減少
- ・上下水道施設の老朽化
- ・知識と技術を有する職員の大量退職
- ・事業の重要性等を市民に理解されていない

○課題

- ・受益者負担の原則等に基づく料金・使用料の適正化
- ・計画的・効率的な施設整備(投資額の抑制・平準化)
- ・人材育成・技術継承
- ・広報広聴の充実

経営資源『ヒト・モノ・カネ・情報』の最適化

現行のビジョン等

福山市  
水道事業  
中長期ビジョン  
(2009～2018年度)

福山市  
公共下水道事業  
経営計画  
(2013～2017年度)

継承

**上下水道事業  
中長期ビジョン  
(経営戦略)**

[水道事業+工業用水道事業+下水道事業]

今後10年間の上下水道事業が  
目指す将来像や目標を示した  
ビジョン  
(2017～2026年度)

5年間の実施計画

**中長期ビジョン 実施計画**

前期(2017～2021年度)  
後期(2022～2026年度)

国の施策との  
整合性

上位計画との  
整合性

経営全般にわたる  
意見等の反映

**国の上下水道事業の  
方向性**

- ・サービスの持続性
- ・効率化、最適化
- ・広域化
- ・民間の資金・ノウハウ活用
- ・ICTの活用
- ・防災対策・危機管理

**福山市の方向性**

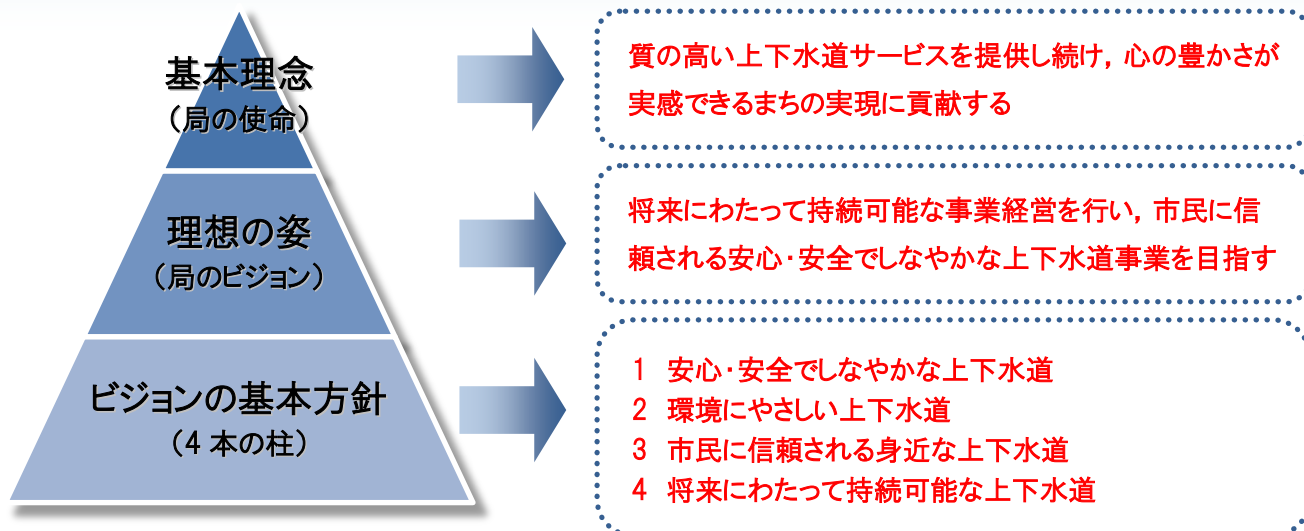
- 第五次福山市総合計画
- 福山市行政運営方針『Re福山』
- 福山市都市マスタープラン
- 福山市環境基本計画

**福山市議会**

**上下水道事業  
経営審議会**

パブリックコメントの  
実施など

# 上下水道事業の目指す姿，ビジョンの基本方針，施策体系



◇「基本理念」(上下水道局の使命)は、「水道市長」とも呼ばれた阿武初代福山市長が、昼も夜も断水がなく、上水道建設の苦勞、喜び、福山の永遠の発展、市民が幸福に暮らすことへの思いを込めた「あんの不舍晝夜」の精神を受け継いだものです。

## ビジョンの基本方針に基づく施策体系〔4本の柱と16の施策:39の取組項目〕

### 1 安心・安全でしなやかな上下水道

安心・安全な水を安定的に供給するとともに、平常時でもとより、災害時にも強く、被災しても速やかに復旧できる施設を整備します。

#### 【4つの施策:取組項目(15項目)の主なもの】

- (1) 水質の安全性・信頼性の確保
  - 水質検査体制の強化
- (2) 計画的・効率的な施設整備
  - 管路・施設の整備計画の策定と見直し
- (3) 地震等の災害に強い管路や施設の整備
  - 水道・工業用水道・下水道施設の耐震化
  - 市街地の浸水対策
- (4) 危機管理体制の確立
  - 事故・災害時における迅速な復旧体制の整備や応援体制の確立

### 3 市民に信頼される身近な上下水道

サービスの質的向上により市民満足度を更に向上させるとともに、多様な意見を経営に反映させるなど、市民との信頼関係を強化します。

#### 【3つの施策:取組項目(4項目)の主なもの】

- (8) 広報広聴活動の推進
  - 上下水道事業の重要性の理解度向上
- (9) 市民満足度の向上
  - 各種サービスの充実
- (10) 多様な意見を事業経営に反映
  - 市民等の意見を事業経営に反映



### 2 環境にやさしい上下水道

資源の有効活用や再生可能エネルギーの利用を推進するとともに、快適で衛生的な生活環境の確保と河川等の水質改善を促進します。

#### 【3つの施策:取組項目(6項目)の主なもの】

- (5) 循環型社会の構築
  - 資源の有効活用
- (6) 省エネルギー対策の推進
  - 施設の環境対策
- (7) 公共用水域(芦田川等)の水質保全
  - 汚水適正処理の推進
  - 水洗化率の向上(下水道への接続の促進)
  - 関係団体との連携強化による水質保全



### 4 将来にわたって持続可能な上下水道

広範な知識や高い技術を有する人材を育むとともに、新たな視点を持って将来を予見した事業経営を行い、持続可能な経営基盤を確立します。

#### 【6つの施策:取組項目(14項目)の主なもの】

- (11) 経営の効率化及び財務体質の強化
  - 行財政改革の推進
- (12) アセットマネジメント(資産管理)の実践
  - アセットマネジメントの実践
- (13) 上下水道施設の規模最適化
  - 施設・設備の最適化
- (14) 職員の人材育成・技術継承
  - 人材の育成、技術や技能の保持・継承
- (15) 多様な主体との連携の推進
  - 民間との連携の推進
- (16) 新たな視点に立った事業運営
  - 発展的な広域化の推進

## <主な目標の設定(10年後の主要指標)>

会 計 区 分	主要指標	現 状 2015 年度 (平成 27 年度)	前期目標 2021 年度 (平成 33 年度)	後期目標 2026 年度 (平成 38 年度)	指標の算定式
水道事業	基幹管路の耐震化率	65.4%	74.2%	76.2%	$\frac{\text{基幹管路のうち耐震管延長}}{\text{基幹管路延長}}$
	有収率	92.6%	93.9%	95.0%	$\frac{\text{年間総有収水量}}{\text{年間総配水量}}$
下水道事業	管路の耐震化率	36.4%	38.4%	39.8%	$\frac{\text{耐震管延長}}{\text{管路総延長}}$
	水洗化率	92.7%	93.9%	94.5%	$\frac{\text{水洗便所設置済人口}}{\text{処理区域内人口}}$

## 経営戦略(投資・財政計画)

上下水道事業を取り巻く経営環境が厳しさを増していく中、日常生活に欠くことのできない重要なサービスを安定的に提供するため、経営基盤の強化に向けて今後 10 年間の経営の基本計画である「経営戦略」を策定しました。

### 経営戦略(投資・財政計画)とは

経営戦略の中心となる投資・財政計画とは、施設・設備の投資の見通し(投資試算)と、財源の見通し(財源試算)に、投資以外の経費も含めたもので、効率化や経営健全化の取組により、収入と支出のバランスが保たれた中長期的な収支計画です。

### 経営目標



持続可能な経営基盤を確立するため、本ビジョンにおける「基本方針」を踏まえ、「経営戦略」における 3 つの経営目標を設定して取り組みます。

#### 経営目標 I

水需要が減少する厳しい環境にあっても、将来に過度の負担を先送りにしない、財政規律を踏まえた健全で安定した経営を行います。

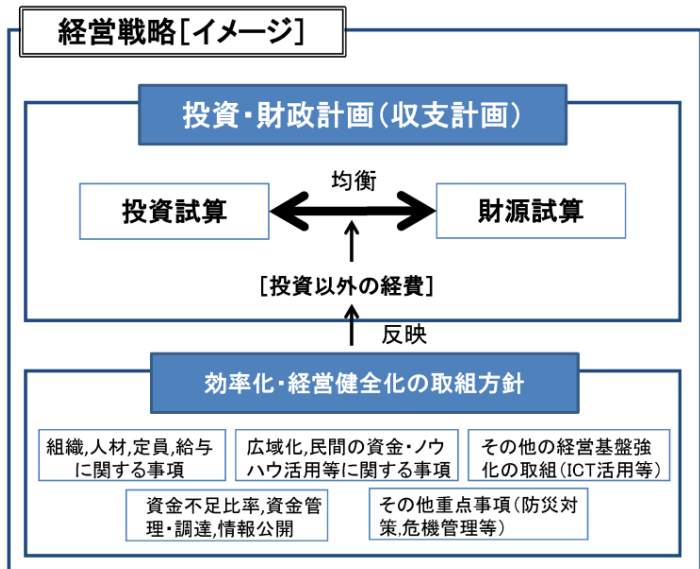
#### 経営目標 II

アセットマネジメント手法の活用により、投資額の平準化を含めた計画的・効率的な更新投資を実現し、市民の安心・安全を確保します。

#### 経営目標 III

自主財源の確保や受益と負担の適正化を行うとともに、多様な主体との連携の推進など新たな視点に立った事業経営を行います。

### 経営戦略[イメージ]

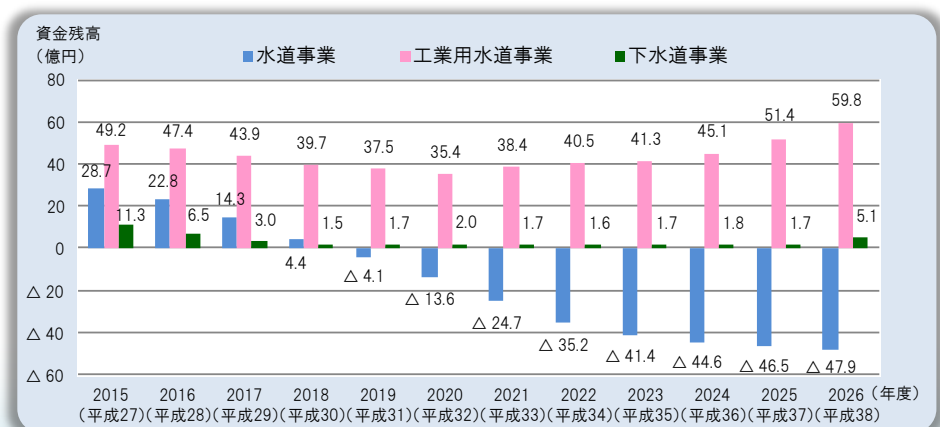


### 投資・財政計画

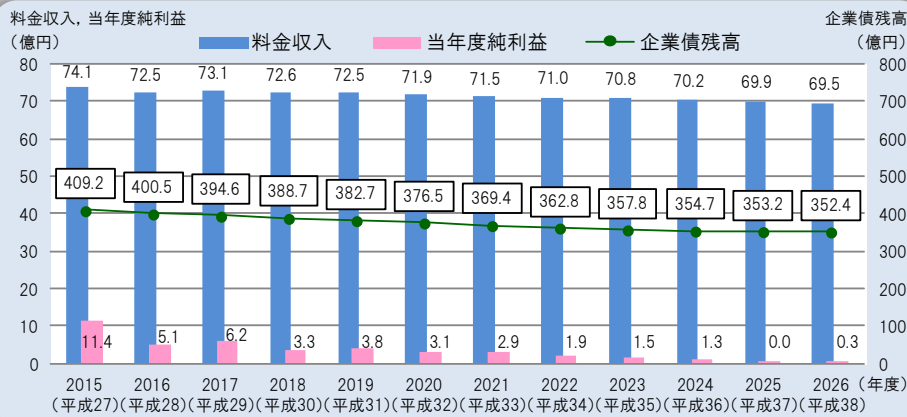
事業経営にあたっては、世代間における負担の公平性と経営の健全性を維持するため、一定程度の資金を確保することが必要です。

水道事業については、将来的に資金が不足する見込みですが、経営資源を最大限活用し、その解消に取り組みます。

### 資金残高(内部留保資金)の推移



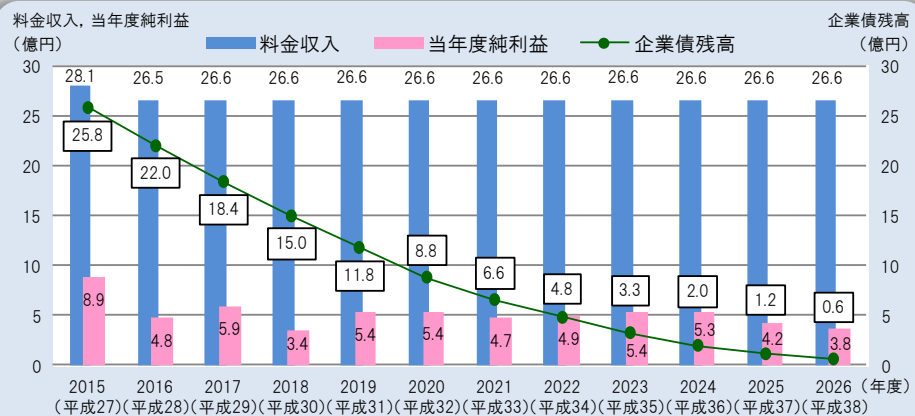
## 1 水道事業



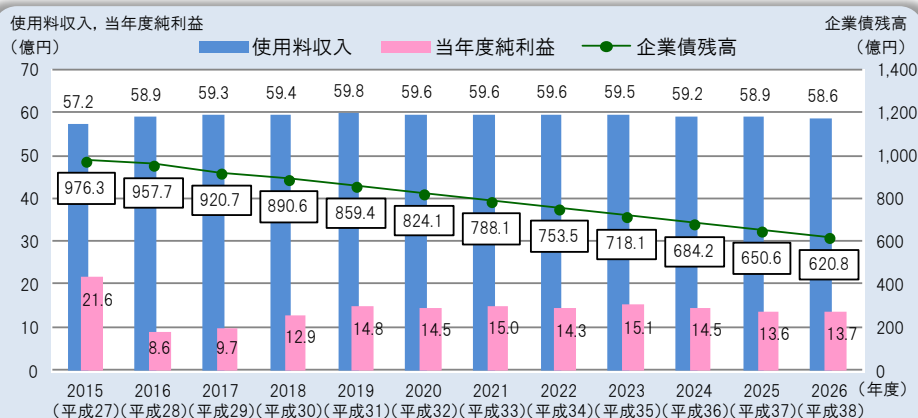
水道事業では、水道料金収入の伸びが見込めない一方で、企業債残高の削減をはじめ、老朽化した施設の更新や耐震化などに毎年多額の資金を要することから、将来的には資金が不足すると見込んでいます。

## 2 工業用水道事業

工業用水道事業では、本ビジョンの計画期間内は新たな企業債の借入を行わないこととしています。将来的に発生する更新投資の増額に対応するため、現段階から必要な資金を確保しておく必要があります。



## 3 下水道事業



下水道事業では、企業債の返済や施設整備に要する経費が引き続き必要なことから、資金残高は低い水準で推移する見込みであり、将来の更新・耐震化に必要な資金を十分に確保できていない状況です。

### 福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）（概要版）

2017年度～2026年度（平成29年度～平成38年度）

発行日：2017年（平成29年）2月

発行：福山市上下水道局 経営管理部 財務経営課 TEL：084-928-1524

〒720-8526 広島県福山市古野上町15番25号 FAX：084-928-1631

ホームページ：<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/site/jougesui/>

Eメール：zaimu-keiei@city.fukuyama.hiroshima.jp